

# 人文研紀要

第89号～第91号(2018年)

## ◆第89号—2018年(2018年9月発行 A5版389頁)

言語変種としての学術ドイツ語の理解と習得 —言語学・文学分野の「導入文献」テキストを用いた授業実践をもとに考える—	林 明子 羽根 礼華
近世初期におけるもっとも古いスペイン通史について(その2) —チュルケ・ド・マイエルヌの『スペイン総史』—	高橋 薫
モンテーニュとカステリヨン —寛容の競演—	宮川 慎也
文学に見る内在と超越 —リルケとメルヒェンを中心とする若干の省察—	戸口 日出夫
第二外国語の授業活性化へのアプローチ —スペイン語の場合—	佐藤 美智代
あるレミグラントについて —演劇人フリッツ・コルトナーの帰国—	飯塚 公夫
わが青春—ラルフ・ノイマンの回想 —ユダヤ人を救った人々(11)—	平山 令二
人工知能と認知心理学に関する考察	兵藤 宗吉
中華人民共和国上海市における上海語テレビ放送と言語政策 —ポスト標準中国語普及時代の方言放送の行方—	小田 格
方法としての形而上学 —井筒俊彦における〈存在—性〉—	小嶋 洋介
ものについて —ロックにおける「外的なもの」への—考察—	竹中 真也
世代間倫理の正当化をめぐって	寺本 剛
13世紀半ばにおける奇跡の記録の形態 —聖エドマンドの奇跡関連史料をめぐって—	北舘 佳史
中世マンズフェルト伯領におけるヘルフタ修道院 —カルテュレールに見る女子修道院と創設家門—	三浦 麻美

◆第90号—2018年(2018年9月発行 A5版376頁)

ルソーにおける労働の意義 —人間の労働と市民の労働—	落合 隆
『日の名残り』における語りの技法 —カズオ・イシグロ小論(2)—	安藤 和弘
The Mayor of Casterbridge における大自然とヘンチャード	柴田 聡子
ハーディのレズリー・スティーヴンへの返答としての『エセルバータの手』	永松 京子
『火山の下』の主人公「領事」の生立ちと経歴	野呂 正
小説の限界と可能性	深澤 俊
価値観の再構築を誘う日本語教育の可能性 —「男女産み分け」を題材とした授業の省察から—	中川 康弘
“言葉”を使いこなすヒロインたち —児童文学にみる“コミュニケーション能力”とは?—	前 協子
夢を生きるコウルリッジ(2) —夢をめぐる自己と時間の意識—	安齋 恵子
神奈川県小田原市内出土試料の炭素14年代測定研究 —縄紋時代前期前半・弥生時代中期を中心に—	小林 謙一
アーサー王伝説を扱ったフェロー語バラッドの物語に見られるハーバート版『聖ケンティゲルン伝』の内容との類似をめぐって	林 邦彦
Le mémoire judiciaire et Les Confessions de Jean-Jacques Rousseau: scène judiciaire et écriture de soi	Morihiko KOSHI
Criticising the Metaphor of Vietnam as a Diseased Land: Stephen Wright's <i>Meditations in Green</i>	Hiroaki NAITO
The Hunting Scenes in <i>Sir Gawain and the Green Knight</i> Revisited	Yasuyuki KAITSUKA

◆第91号—2018年(2018年9月発行 A5版260頁)

<p>明治の『ロミオとジュリエット』 —シェイクスピアと日本の英語教育—</p>	<p>近藤 弘幸</p>
<p>制憲国民大会序論</p>	<p>齋藤 道彦</p>
<p>宋詩における「思旧賦」</p>	<p>河野 哲宏</p>
<p>経験の形而上学 —カント哲学講読(二)—</p>	<p>須田 朗</p>
<p>北魏洛陽における治安維持官 —六部尉をめぐる—</p>	<p>角山 典幸</p>
<p>土木の変における在華モンゴル人の衛所官軍について</p>	<p>川越 泰博</p>
<p>曹簞と于応昌 —明代万曆初期の監察事例から—</p>	<p>荷見 守義</p>
<p>西魏の統治領域区分についての補論</p>	<p>前島 佳孝</p>